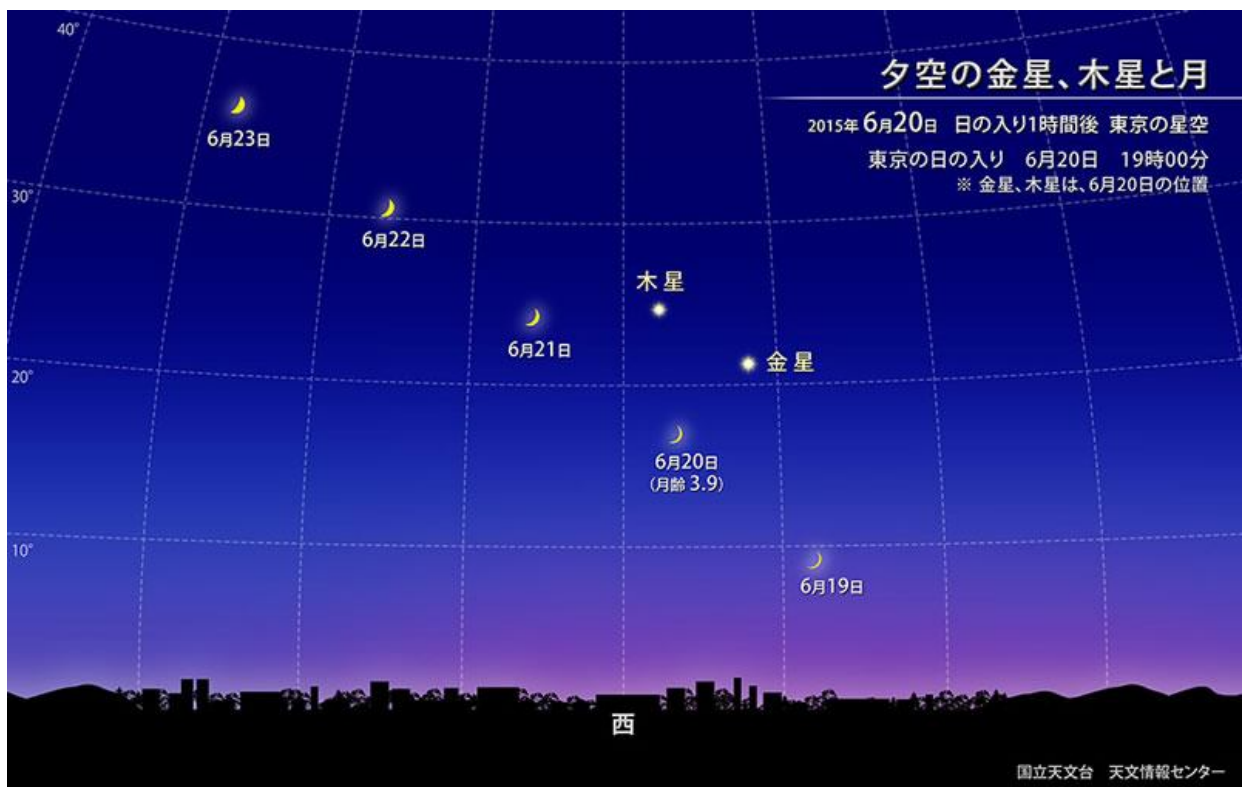


6月に入ると西の方から梅雨入りのニュースが入って来ます、関東でもぼちぼち梅雨入りですね。

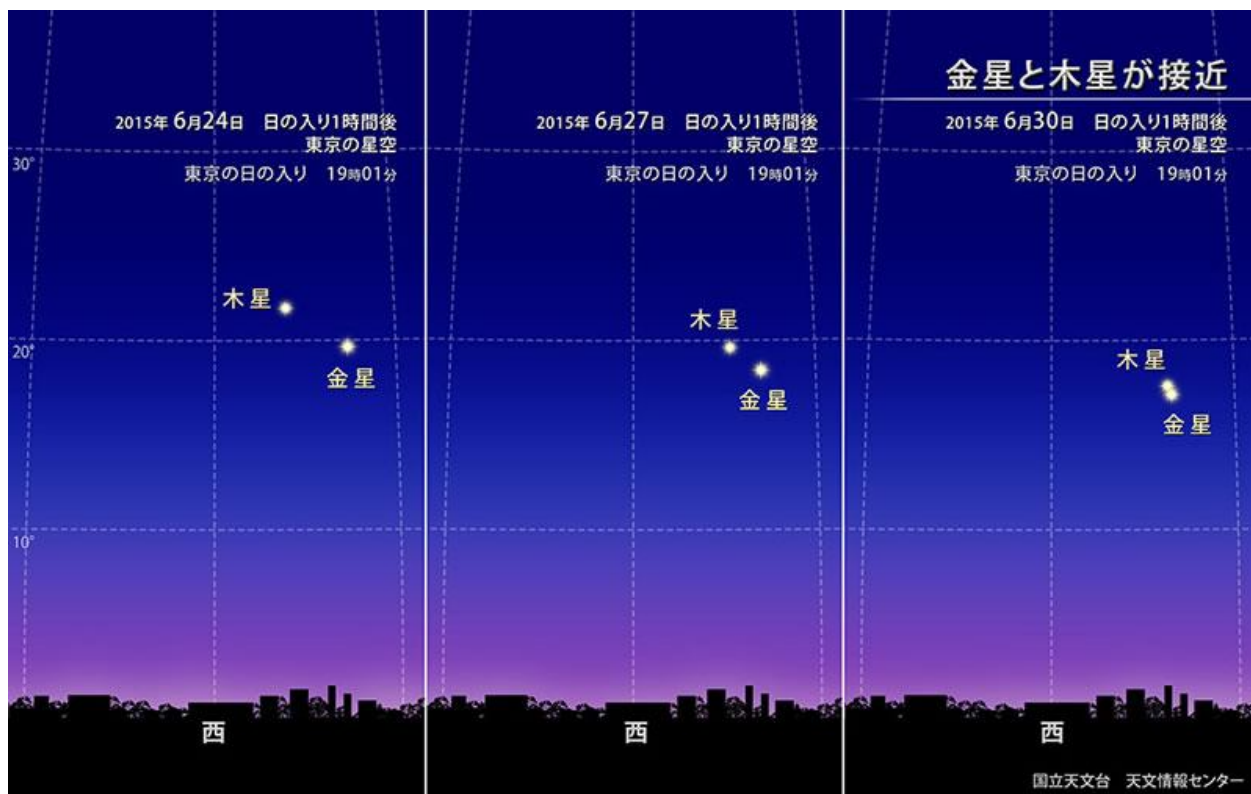
これから7月の後半まで星空観望にとっては厳しい日々が続きそうです、しかしこの時期に雨が降らないと農作物にとっては致命傷です、程々に降ってもらいたいものです。

いくら、梅雨に入っているとは言え数日に一度位は星空を見上げる事が出来ると思います、その貴重な一日を無駄にしない様にしましょう。

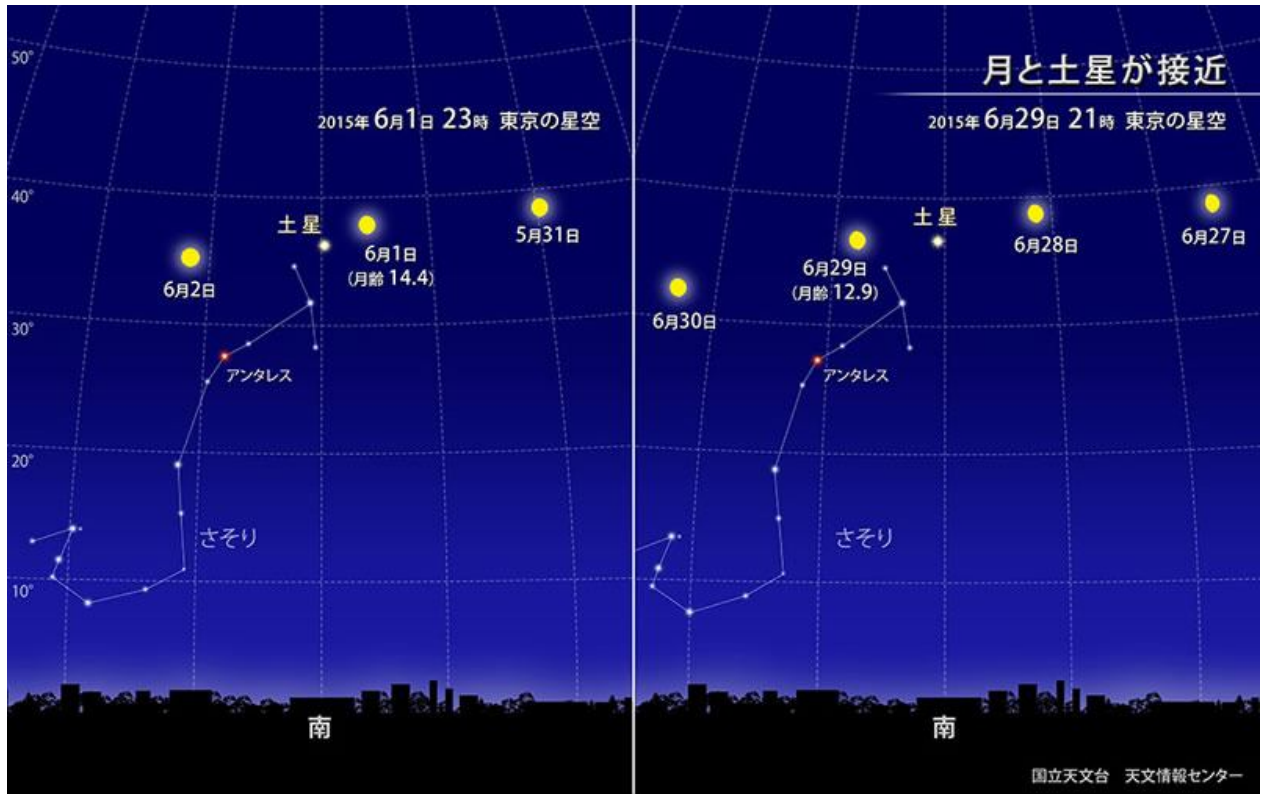
今月比較的に明るく条件良く見える惑星は**金星・木星・土星**の三惑星です金星と木星は日が沈んで直ぐ西の方角に見えて来ます、特に金星は極端に明るくUFOではないかと間違えた事もありました、木星も比較的に明るく金星の（南東）左上に見えています、6月20日頃の夕方この2惑星と三ヶ月の細い月が西空に映えて見える事でしょう。



また6月の30日から7月の始めに掛けて金星・木星が非常に接近するので此方もお見逃しなく。



また土星は日が暮れた頃に東の空に見えてきます、こちらは前述の惑星に比べて暗いのですがそれでも1等星の明るさをもっているなので簡単に探す事が出来るでしょう、目安としては土星の東側にS字の形をしている、星座ランキングで5本の指に入る人気星座さそり座が目印になります、東京でも簡単に見つけることが出来るでしょう、



気象条件が良く観望出来る様でしたら是非楽しんで見てください。

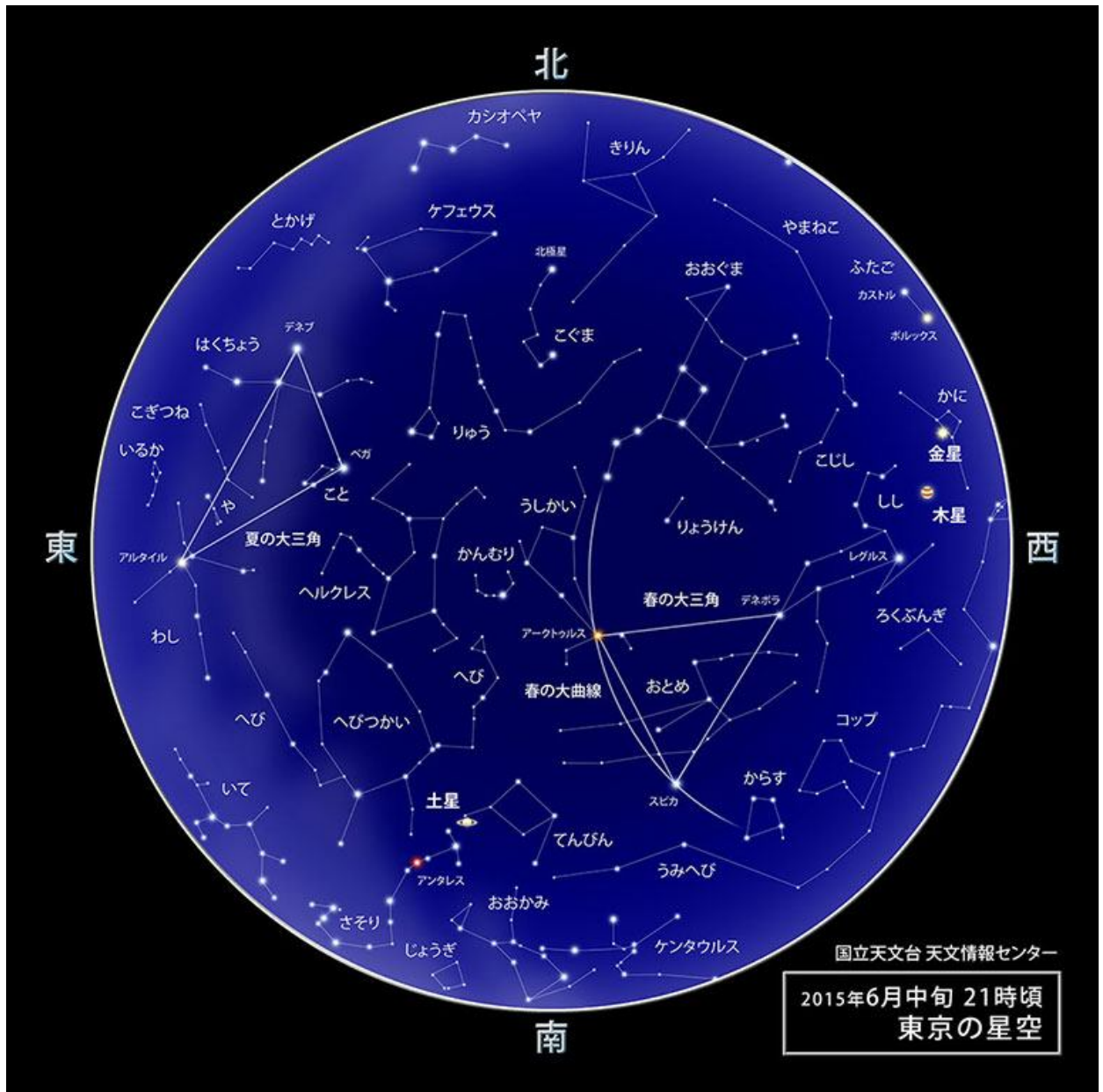
又近くの科学館でやっている観望会に出席してみて大型の望遠鏡で惑星を覗いてみてください。間違いなく宇宙の神秘を肌で感じる事ができるでしょう。

晴れる日が少ないので楽しめる日にちは少ないのですがたまに晴れた日には夜空を観望してください、

夕方晴れていれば春の星座しし座・おとめ座・うしかい座などが、夏の星座に主役を明け渡すかの様に西空に傾いて行きます、それでもまだしし座のレグルス・おとめ座のスピカ・うしかい座のアークトゥールスを結ぶ三角形、春の大三角が簡単に見つけることができます、また北の空を眺めると、ひしゃくの形をした北斗七星が見つかります、この北斗七星の柄の部分伸ばして行くと、とうしかい座のアークトゥールスもう少し伸ばすとおとめ座のスピカに架かりますがこのカーブを春の大曲線と呼んでおります。

春の星座もこの辺りまで、この東側にはさそり座・へびつかい座・ヘルクレス座・等夏の星座が押して来ています。

東の方角を見てみると夏の天の川の上にある、はくちょう座・こと座・わし座が登り始めています、こと座のベガ・はくちょう座のデネブ・わし座のアルタイルこの明るい1等星を結ぶ線が夏の三角と呼ばれています、また、こと座のベガとわし座のアルタイルが七夕の主役乙姫と彦星になります。(一年に一度の逢瀬には晴れるといいですね。)



2006年に打ち上げられた惑星探査衛星ニューホライズンが惑星から準惑星に格下げされた冥王星に9年半、48億キロの距離と時間を掛けて7月14日に最接近をすとの事です、近付きながら撮影してきた写真を見ると極付近に氷が有るとか地殻内部には海が有るのではないかと聞くようになりました、もし海が有るのなら何らかの生命体が居てもおかしくないと思います、たとえ単細胞の生き物でも宇宙人とよぶのでしょうか？

いずれにしても最接近時には驚くようなデータを送ってくれることでしょう、期待して待ちましょう。

1億キロの距離から撮影された冥王星と衛星のカロンの映像



この後ニューホライズンは冥王星を離れて尚太陽系の外側の空間を探査する予定になっています。  
とんでもない発見を期待しています。

5月にISS国際宇宙ステーションに搭乗予定だった油井さんの予定がずれて  
7月の下旬になったようです。  
また次の日本人搭乗予定者も決まっているそうなので次々に日本人飛行士が誕生  
しそうです、応援しましょう。